

平成22年4月1日

第73号

関東の森林から



関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25
TEL.027-210-1158

<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/>



だけ 温泉から望む安達太良山（福島県二本松市）
（撮影者：福島森林管理署 津谷 広百生）

多様なニーズを踏まえた地域管理経営計画の策定

計画部 計画課

私と国有林「FIC君津の森の整備と活用」

千葉県森林インストラクター会 会長 竹内 進氏

多様なニーズを踏まえた

地域管理経営計画の策定

計画部 計画課

国有林野の管理経営については、地域によって森林の状況はもちろん自然環境や社会的特性も異なることから、これらを踏まえた事業実施に関する事項などを定める計画として「地域管理経営計画」を策定することとしています。

これまでの地域管理経営計画は、案の段階でホームページに掲載するなどにより、国民の皆さんに意見を伺っていましたが、実際に提出され

る意見は、限られたものでした。

しかし、森林に対する国民の皆さんの期待は、山崩れなどの災害防止や水資源を蓄える働きなどに加え、地球温暖化防止への貢献や貴重な動植物の生息の場としての働きなど多様化しており、このような多様な要望に応えていくためには、森林に関する情報をわかりやすく発信し、地元関係者などから地域情報を含めた意見を聞く機会を設け、管理経営に

反映していくことが有効と考えられます。

このため、今年度から地域管理経営計画の案を検討する早期の段階から、地域の多様な意見を把握するための取組を推進することとしています。

このような中で、当局管内で初めての試みとして、平成22年度計画策定に向け、塩那森林管理署が地域の皆さんの意見を直接伺う意見交換会を3月10日に開催し、学識経験者、地元自治体、森林・林業関係者、自然保護団体、山岳会など約40名の参加をいただきました。

署長から現行計画の概要や次期計画の基本的な考え方を説明した上で、意見交換を実施し、参加者からは「作成前の意見交換会は大変良い」「国有林の対応など勉強になった」「今後とも、意見を聞く機会を開催してほしい」などの意見をいただきました。

また、「保護林の設定後は、適確



意見交換会参加者の皆さん



平成22年度に森林計画を策定する計画区



塩那森林管理署長説明

な管理が必要」「人工林も生物多様性の維持・向上に寄与できるように伐の推進が必要」「観光地では眺望の確保も必要」「景観に配慮して広葉樹も植栽すべき」などの要望もあり、今後の国有林野の管理経営に活かしていきたいと考えています。

今後は、各地域においても、今回の塩那署の意見交換会をモデルとして、国民のニーズの多様化に十分対応していくために意見交換会を開催するほか、各種会議の場やホームページを活用して地域の情報収集に努め、いただいた意見などを計画作成に反映し、森林整備の方向をわかりやすく示すとともに、国有林がより国民の森として地域に根ざしたものとなるよう進めて参りたいと考えています。

赤谷の森から

地元小学校で環境教育

3月2日(火)新治小学校で、地元の子供たちを対象に当センターと赤谷プロジェクト地域協議会とで、身近に様々な動物が生息していることに興味を持ってもらうことなどを目的に環境教育を実施しました。

子供たちが昨年秋に三国峠付近に設置したセンサーカメラの写真には、ホンドリスが写っており、みんな興味津々でした。

映像を使った「赤谷の森」に生息する動物や猛禽類の説明では、特にクマタカが餌をついばむ姿に注目が集まりました。



映像を交えイヌワシの生態を説明

また、猛禽類ワーキンググループの山崎座長も撮影に参加し、民間テレビで放映された「イヌワシ・風の砦」のビデオを紹介しました。

今後も、地域の教育機関と連携して、次世代を担う子供たちに、赤谷プロジェクトの活動や身の回りの自然に関心を高めてもらう取り組みを続けていきたいと考えております。

自然教室指導者講習会を開催

3月16日(火)「いきもの村」において、地元みなかみ町と友好関係にある千葉市の市立中学校の先生や赤谷に所在する教育宿泊施設高原千葉村関係者約20名を対象に、講習会を開催しました。

この講習会は、当センターが実施している環境教育プログラムの一つで、先生や教育関係者などが環境教育に実践的に取り組めるようにすることを目的としています。

当日は、「いきもの村」のフィールドを利用した猛禽類調査や森の動



センサーカメラ取付の実習



「いきもの村」にて記念撮影

物観察等のプログラムを紹介し、その後、センサーカメラ取付などの実習を行いました。

群馬県と千葉県は利根川を通じて上下流の関係となっており、今後もこのような取り組みを進めていきたいと考えています。

第2回企画運営会議の開催

3月23日(火)みなかみ町新治支所で赤谷プロジェクト・平成21年度第2回企画運営会議が開催されました。当日は、赤谷プロジェクト地域協議会、(財)日本自然保護協会、関東森林管理局に加え、サポーター、オプザーバーとして群馬県利根沼田県民局の担当者など30名が出席しました。

今回は、次期地域管理経営計画にこれまでの赤谷プロジェクトの成果を反映させるために作成された「赤谷の森・基本構想」について討議され、今後、これに基づき「赤谷の森」に地域の声をどのように反映させていくか、属地的な森林施業の内容をどのように決めていくか、実務的なスケジュールなども含めて話し合われました。

また、旧三国街道を活用したエコツーリズム、旧猿ヶ京小学校の活用など地域づくりに関する検討を環境教育ワーキンググループとも連携して取り組んでいくことが提案されました。

(赤谷森林環境保全ふれあいセンター)



赤谷の森・基本構想などについて議論

私と国有林 FIC君津の森の整備と活用

千葉県森林インストラクター协会会长 竹内 進

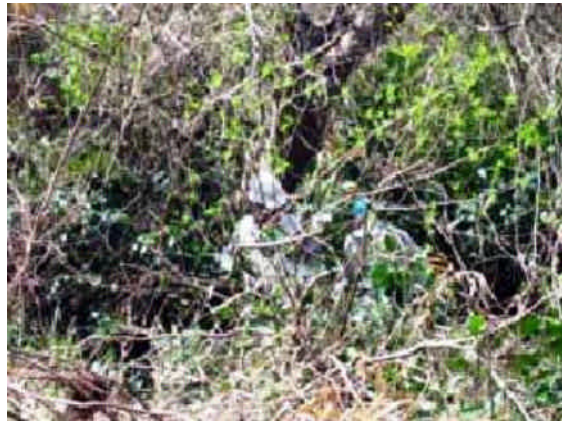
なだらかな山容、桜と菜の花が売りものの観光地マザー牧場、30年前にトラ騒動で名をはせた真言宗智山派の古刹神野寺。この東京湾を眼下に見おろす景勝の地、鹿野山の中腹に「FIC君津の森」があります。ちなみに、FICは千葉県森林インストラクター会の略称です。私達の会FICは、この鹿野山にある国有林の一部、1・86鈔を「国民参加の森林づくり」制度に基づき平成15年10月に千葉森林管理事務所と協定を締結して森林整備と活用を行っています。

この森は東向きの緩斜面でコナラを主とした落葉広葉樹林です。記録によるとおよそ100年前、地元の周南村（現在は君津市の一部）との間で分収林契約が結ばれ、薪炭生産が行われてきましたが、平成元年に契約が解除されました。

その後は広葉樹天然林として特に実施は行われず、平成15年時点ではアズマネザサ及びクズを主にしたつる類が繁茂する状態となっていました。そのため、私達はササとつる類の



整備作業の状況



当初のササとつる類の繁茂状況

刈払いを中心とした森林整備作業、作業の効率化を図る歩道の設置を進めてきました。

当初はどこから手を付けて良いのやらといった状態でしたが、月一回の作業日に県内各地から参集する会員の整備作業の積み重ねにより、5年を経過した現在では中心部を貫く歩道もでき、林内もある程度自由に歩けるまでになったうえ、明るくなった林床にエビネやサイハイランが花を咲かせるようになりました。



林床に咲いたエビネの花

この森は会員の現地研修や一般市民を対象とした野外森林講座の場として活用する目的で整備に取り組んで参りましたが、今では一般市民を林内に御案内できるまでになり、私達の計画が実現しつつあります。

私達森林インストラクターは試験に合格して資格を取得したということもあり、ややもすると知識偏重になりがちで、森林の実際の姿への理解が十分でないいきらいがあります。そのような私達自身の弱点を克服し、

より現実に沿った森林への理解と活動を進めて行く研修の場としてこのFIC君津の森は非常に役立っています。

今後に向けては、これまで5年間の整備と活用の経験を基に、協定締結面積を拡大し、東京湾アクアラインから近いという地の利を活かして、近隣の森林インストラクター会に呼びかけての共同作業など、より幅広い活動を展開したいと考えています。

国有林をこのような形で活用し、森林の果たしている役割やその重要性、そして整備の必要性などを身をもって知ることができるとはとてもすばらしいことだと思えます。

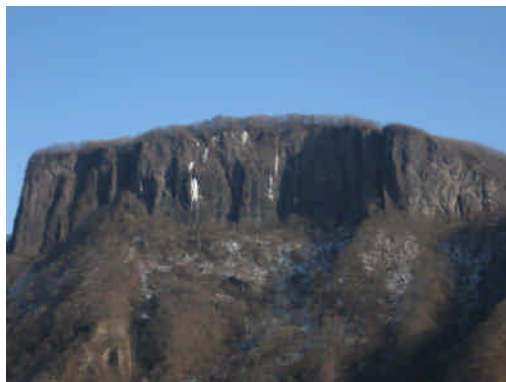
このような場を提供いただいている国有林に感謝しております。



整備作業に参集したFIC会員

森づくり最前線

群馬森林管理署 下仁田森林事務所 森林官 山崎 秀春



当事務所管内を代表する荒船山

私の働く下仁田森林事務所は、群馬県の西部に位置し、人口約1万人が生活を営む自然豊かな下仁田町にあります。

下仁田町ってどんなところ？と聞かれたときは、「タレントで群馬観光大使を努める井森美幸の出身地」、ダイエット食品の王様「コンニャクの生産高日本一」、すき焼き鍋の材料として欠くことの出来ない「下仁田ねぎの生産地」とPRしています!!郷土の上毛カルタでは「ねぎとこんにゃく下仁田名産」と詠じています。



シカ被害地(スギ4年生)

管内は、城下町小幡^{かんらまち}の甘楽町からはじまり、国道254号線と並行して流れる鍋川^{かづら}を西へ遡上し、長野県境の内山峠に至る約40kmの両岸に広がる森林で、その森林の中腹から稜線にかけて団地状に点在する国有林を管理しています。面積は下仁田町他3市町村にまたがる約5千畝です。

森林の現況は、林齢40年前後のスギ・ヒノキ・カラマツ等の人工林が多く面積比で約60%、急傾斜地や土壌条件の悪いところは天然林となっています。

また、管理面積の大部分が水源かん養保安林や妙義荒船佐久国定公園等の制限林となっており、森林整備作業には細心の注意をはらい業務を遂行しています。



くくりわな

最近、山村地域住民の高齢化が進み、耕作放棄された農地の増大と共に野生動物による被害が問題化しています。

当事務所管内においてもシカ、クマ等による造林木の被害等の被害がここ数年増大して、今までは忌避剤塗布と狩猟期のハンター頼みの対策でしたが、被害が一向に減少しないことなどから、狩猟免許を取得して平成21年度からは市町村長に申請し地元の有害鳥獣駆除隊の協力を得て行う「有害鳥獣駆除」と「くくりわな」による駆除を併用して実施しています。

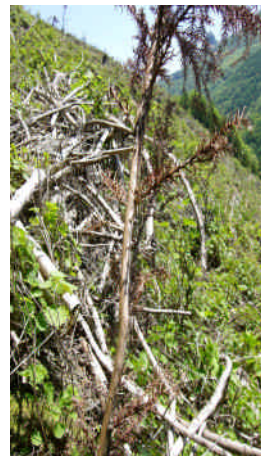
「有害鳥獣駆除」申請や「くくりわな」の狩猟免許取得に当たっては、県・市町村の担当者と専門用語で話しをすることになり、併せて鳥獣に関する知識が必要となるので、大変良い勉強になりました。

狩猟免許の受験会場には、県内各地の市町村の職員や、猟友会で免許のない人など、有害鳥獣駆除のため資格取得する人が多数詰めかけ、鳥獣被害の深刻さをあらためて感じました。

申請が済み、許可書が届くと「わな」の設置作業に入りますが、ここからは、狩猟免許（猟銃）を持ち駆除隊員でシカの生態に詳しく経験豊かな職員の力を借りることとなります。

被害の多い幼齢造林地周辺の動物の通勤路＝獣道をたどり、掛かりそうな地形を選び「わな」を設置します。設置後は動物が掛かっているか毎日点検することになり、期待と不安が交差する瞬間でもあります。動物も利口で易々とは掛かってくれず、今までに捕獲したシカは十数頭ですが、今後も被害減少にむけシカやイノシシとの知恵比べが続くことと思います。

以上各種の条件が整わないと実行できない、他所では経験できない我が森林事務所の業務の一端について、紹介させていただきました。



シカの被害木(スギ4年生)

あ だ た ら や ま

管内の百名山 「安達太良山」



大玉村から安達太良山を望む

福島県の名峰「安達太良山」は、磐梯朝日国立公園の南端に位置し、日本に108ある活火山の一つで、那須火山帯に属しています。1900年に噴火し、以後その痕跡を残す火口付近は痛々しくも火口景観として登山者を魅了しています。

安達太良連峰は、南から和尚山、安達太良山、船明神山、鉄山、箕輪山、鬼面山が連なる約9kmにわたる連峰です。標高1,700mで森林限界に達し、その上部は植生が乏しい為、福島県西側の会津地方裏磐梯から東の中通の眺望が楽しめ、加えてそれぞれの特徴ある山々を縦走出来ることも魅力の一つです。山頂までのアクセスは、安達太良スキー場のゴンドラで1,300mまで登り、400mを徒歩で登るコースがあり、初心者でも比較的登りやすい山です。

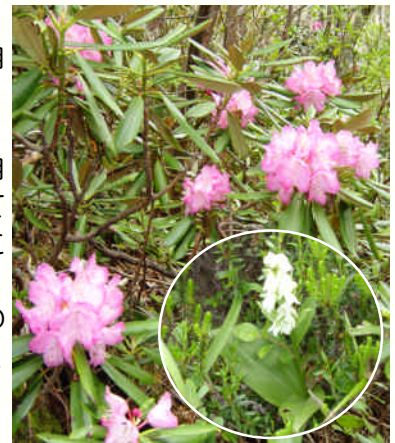


遊歩道を活用しての森林教室

日本百名山の一つとしてその名が知られていますが、うつくしま百名山・花の百名山にも選ばれ、吾妻シャクナゲ、サラサドウダン・レンゲツツジ、オノエラン等が咲き誇り、多くの高山植物を見ることができます。また、平成20年に補修整備された、安達太良遊歩道(約2km)の周辺もまた、安達太良山の景観美の一つとして、訪れる観光客の心と体を癒してくれます。

福島森林管理署では、安達太良山周辺の国有林約1,500haを自然休養林に指定し、スキー場の設置や遊歩道の整備等を行い、積極的に森林空間利用に供しています。保護管理についても、地元二本松市を中心とした各種団体が設立している安達太良自然休養林保護管理協議会と連携し、各種の取り組みを展開して自然豊かな安達太良自然休養林を維持管理し、国有林のPRに努めています。

また、平成22年4月に設定が予定された「日光・吾妻山地緑の回廊」に含まれ、生物多様性に配慮した森林施業を進めていくこととしています。



(福島森林管理署 広報広聴連絡官) 咲き誇る吾妻シャクナゲ・オノエラン

発行所 関東森林管理局
編集総務課
 TEL (027) 210-1158
 FAX (027) 210-1159

所在地: 東京都小笠原村父島字東町152
 小笠原総合事務所3階
 電話番号: (049998) 213403
 ファックス: (049998) 212650



関東森林管理局は、世界自然遺産登録手続を進めている小笠原諸島において、遺産登録に向けた希少種の保護・増殖、外来種対策等の取組を一層推進するため、4月1日付けで「小笠原諸島森林生態系保全センター」を新たに設置しました。

「小笠原諸島森林生態系保全センター」を設置

お知らせ

イベント参加者募集

高尾山カメラシステムキャンプ

自然の中で、全日本山岳写真協会講師から
撮影技術の指導を受けます



と き：平成22年4月22日(木)

と ころ：八王子市高尾山国有林(日影沢)

集 合：日影沢キャンプ場 9時45分受付

解 散：現地解散 15時25分

参 加 費：1人1,000円

持 ち 物：カメラ・三脚など

定 員：50名

申込締切：平成22年4月8日(木)必着

申込方法：往復ハガキに①郵便番号②住

所③氏名(ふりがな)④年齢(学

年)⑤電話番号(可能であれば携

帯電話番号・メールアドレス)と

返信面の宛名を必ず明記のうえ、

「高尾山でカメラシステムキャンプ係」

までお申し込みください。

詳細は、こちらまで

関東森林管理局 高尾森林センター

〒193-0844 八王子市高尾町2438-1

電話番号：(042)663-6689

<http://www.rinyamaff.go.jp/kanto/takao/>

妙高高原

世々峰高原スプリングイン夢見平

癒しの森林セウピーロードを歩こう!



と き：平成22年5月15日(土)

と ころ：新潟県妙高市

集 合：乙見湖駐車場(笹ヶ峰ダム)

参 加 費：大人500円

(中学生以下無料)

散策時間：約3から4時間(ガイド付)

持 ち 物：昼食・飲み物・雨具・防寒具

トレッキングシューズ又は長靴

定 員：先着100名

申込み・お問い合わせ

妙高市観光協会

電話番号：(0255)86-3911

妙高市妙高高原支所

電話番号：(0255)86-3131

上越森林管理署

電話番号：(025)524-2180

<http://www.rinyamaff.go.jp/kanto/joetu/news/index.html>

森林と野鳥に親しむつどい

日光森林管理署と日本野鳥の会栃木県支部は、
小倉山野鳥の森(国有林)において「森林と
野鳥に親しむつどい」を開催します。



と き：平成22年5月30日(日)

と ころ：栃木県日光市所野

集 合：小倉山野鳥の森(国有林)

第2駐車場

内 容：野鳥観察会・木工工作

定 員：先着30名

参 加 費：200円(障害保険料)

(中学生以下無料)

申込締切：平成22年5月14日(木)先着順

申込み・お問い合わせ

日光森林管理署・森林ふれあい係まで

電話番号：(0288)22-1069

お電話で申し込みください。

<http://www.rinyamaff.go.jp/kanto/nikkou/news/index.html>

